

75 《聖マタイの召命》に謎は存在しない

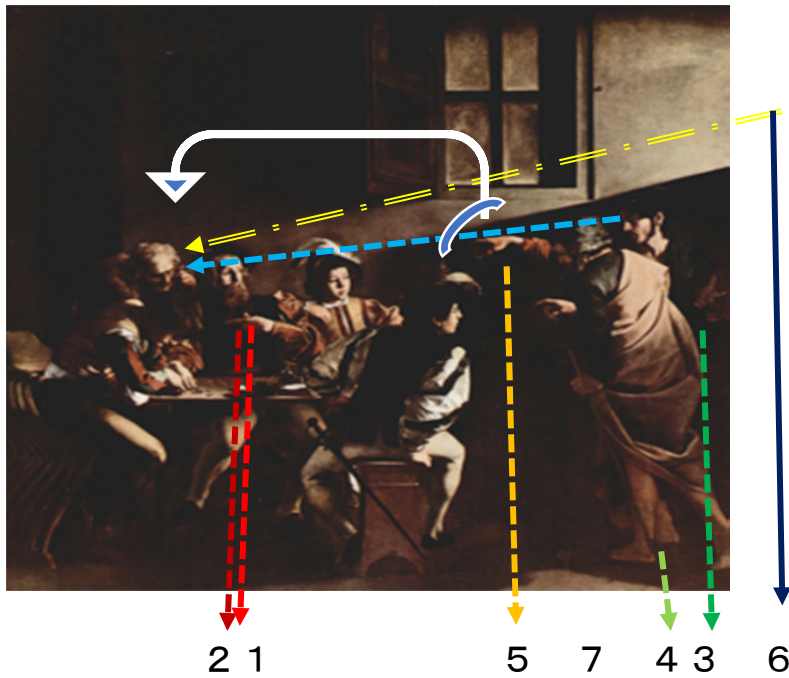
2段階の連続質問動作と3段階の連続回答動作で明瞭

2024

真鍋友範

1 髭男の2段階の連続質問動作とイエスの3段階の連続回答動作

により、【明確にマタイへの召命は完了した。】



- 1) 親指を胸に当てる髭男の動作「私をお探しですか」
- 2) 人差し指の動作「それとも、隣のメガネの収税人ですか」
- 3) イエスの開いた左手による質問受容動作【答えよう】の意味
- 4) 右足の一步左側への位置移動
その意味は【メガネの収税人の顔が見える位置への視点移動】
- 5) イエスの右腕・手首の回転動作
【手首より先に力無し・指差し動作では無い】

「向こう側の眼鏡の人だ」の意味

- 6) 父なる神からの啓示の光線【頭頂部の点光】
- 7) メガネ男の顔付近でイエスの廻した手が止まる。「私に従いなさい」

以上が1) から7) へと順次発生順に場面が変化する、連続場面の動画表現

読み取りが進むにつれ、動画のように目の前で場面展開し、驚愕の結論に至る劇場的仕掛けが、この絵画には隠されている。これこそバロック絵画の真髄なのだ。

従って、これらをカラヴァッジョの作画意図に従い、この動画を正確に読み取らない限り、バロック絵画を理解しているとは、恥ずかしくて言えないのではないか。

2 メガネの収税人は立っている姿では無い。

イエスが見たときは、(聖書マタイ伝9-9の通り)座っていたが、収税作業の進展に従い立ち上がり、眼鏡をもち、作業を監視する為、深く腰を曲げ、机の上で進む金銭授受を覗き込んだ。その為、右手は机に手をつかざるを得ない姿勢となった。(＊背中を45度に傾け、登場人物と同じ姿勢をとれば理解できる。)

マタイは、机に寄りかかった3点支持姿勢から、体を起こし立ち上がる必要がある。(聖書の記述に全く矛盾しない。)【マタイは立ち上がりイエスに従ったのだ。】

3 謎など、全く存在しない 《聖マタイ論争》はナンセンス

- 1) 誤解説その1 《マタイは髭の男》イタリア説
17世紀のデッサンに無知な美術史家ベッローニのデタラメな解説を踏襲したまま、後世において真面目に再検討した様子がない。召命が途中場面で終了する。ローマ・カトリック教会は、世界中に誤った解説を流布している状態だ。(17世紀～2024現在)

2) 誤解説その2 《うつむいた若い収税人》ドイツ説

ドイツ学派を学んだ日本の美術史研究者の説だが、カラヴァッジョの描いた描写の細部を無視し、主観的解釈に偏り、合理的説明に欠ける解説である。イエスは指差してないのに、指差していると誤解し固執している。(1980年代～2024現在)

【*両説ともに解説に論理的説得力がない。カラヴァッジョの精密描写能力と画面構成能力が全く理解されていない誤解説。】

今一度、カラヴァッジョの描いた絵に戻り、絵を隅々までよく見るべきだろう。また、【眼鏡の男やイエスの身体動作も、実際に同じくポーズを再現して、正確に再現しながら】、その結果を正しく再判断するべきだろう。

* 絵痴（絵画音痴の意味・造語）の方でなければ、必ず理解されるはずだ。